競技注意事項

１　本大会は、２０１７年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項に準じて行われる。

２　招集方法について

①招集場所は、１００ｍスタート側の雨天走路内に設ける。

 　 　②招集時刻（最終点呼をうけること）

　　　 ・プログラム記載時刻とする。

・最終点呼の開始時刻については、トラック種目は競技開始時刻の３０分前フィールド種目は５０分前から行うので、招集開始時刻５分前までには招集場所に集合し点呼を受けること。その際必ずナンバーカードが付いたユニホームを着用すること。また、スパイクのピンも確認する。

（棒高跳とハンマー投げは競技場所で最終点呼を実施する。）

・競技場所への誘導は審判の指示に従うこと。

・完了時刻は競技日程時刻の（　）内に示してある時刻とする。

　　　　・招集完了時刻に遅れた場合は当該種目を棄権したものとする。

 　③スタートリストはプログラム記載の競技開始時刻６０分前より掲示する。棄権する場合は招集所に掲示してあるスタートリストに招集開始時刻までに×印を付けること。

３　ナンバーカードについて

①ナンバーカードは胸・背部につけ、トラック種目に出場する競技者は右腰部にも付けること。

 　　なお、跳躍競技の競技者は背または胸部のどちらか一方でもよい。

 　また、中学生は胸・背部はプログラム記載のナンバー、腰は各自で準備したレーンナンバーを使用。

　　　②レーンナンバーカード使用について

　　　　胸、背、腰・・・１５００ｍ以上の中長距離（競歩含む）

　　　　腰のみ・・１００ｍ（決勝）、８００ｍ（予選・準決・決勝）

４　競技について

１トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載順による。

２１５００ｍ以上の競技はタイムレース決勝とする。

３成年男子１００００ｍＷは、５０００ｍＷに置き換えて実施する。

４成年女子８００ｍ・５０００ｍＷ・走高跳には、少年女子Ａからも参加することができる。

５棒高跳・走高跳のバーの上げ方は、下記の通りとする。（ただし、天候等で変更もあり得る。）

６少年男子共通１１０Ｈのハードルの高さ／ハードル間は、０．９９１ｍ／９．１４ｍとする。

７少年女子Ｂ１００Ｈのハードルの高さ／ハードル間は、０．７６２ｍ／８．５ｍとする。

 走高跳（成年・少年共通）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  区分 | 練習 | １ | ２ | ３ | ４ | ５ | ６ | ７ | 以後３ｃｍ ずつあげる |
|  男子 | 1.60 | 1.65 | 1.70 | 1.75 | 1.80 | 1.85 | 1.88 | 1.91 |
|  女子 | 1.30 | 1.35 | 1.40 | 1.45 | 1.50 | 1.55 | 1.60 | 1.63 |

棒高跳（成年・少年共通）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  区分 | 練習 | １ | ２ | ３ | ４ | ５ | ６ | 以後１０ｃｍずつあげる |
|  男子 | 3.00,3.50,4.00 | 3.00 | 3.20 | 3.40 | 3.50 | 3.60 | 3.70 |
|  女子 | 1.50, 2.50 | 1.80 | 2.00 | 2.10 | 2.20 | 2.30 | 2.40 |

8少年共通三段跳びの踏切板は砂場より１２ｍに設置する。

9競技用具はすべて競技場備えつけのものを使用する。

（棒高跳のポール等、競技用具を持ち込場合は必ず検定を受けること。）

10スパイクのピンは、トラック競技は９ｍｍ以下、フィールド競技は１２ｍｍ以下とする。

11スタートの合図はイングリッシュコマンド方式とする。

12不正スタートによる失格の取り扱いは「新ルール」を適用する。（一発失格を採用する）

　　　13プログラムに訂正がある場合は、必ず本部に訂正用紙を提出すること。（訂正用紙は本部に準備する）

５　写真撮影およびビデオ撮影を行う場合は、必ず正面玄関受付にて許可申請の上、許可証を付けること。

　　　許可申請をしていない場合は、いかなる場合も撮影を許可しない。（盗撮防止のため協力下さい）

　　　また、スタート後方・横方向からの撮影はすべて禁止とする。

６　主催者側による写真やビデオで撮影した画像は、石川陸協ホームページに掲載することがあるので了解ください。なお、掲載を拒否される競技者・監督は本部までご連絡下さい。

７　競技中に発生した傷害については、応急処置のみ主催者側で行うが、その後の責任は負わない。

８　競技場内に商品名のついた衣類、バックを持ち込む場合は本連盟ルールブック「競技会における広告物及び展示物に関する規定」に従うこと。

９　ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、ＣＤ、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で使用することや所持することは助力とみなす（第１４４条２）ので、最終点呼を受けた後は、使用したり、所持したりしている場合は失格となります。

１０　雨天走路を待機場所として使用することを禁止する。

１１　フィールド種目の計測ラインは設けない。

（ただし、天候・参加人数により以下のように設ける場合もある。）

　　【男子】　　　　　　　　　　　　　　　　　　【女子】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 区分 | 種目 | 計測ライン |
| 少年Ａ | 走幅跳 | ５ｍ６０ |
| 少年Ａ | やり投 | ３０ｍ００ |
| 少年Ｂ | 走幅跳 | ５ｍ３０ |
| 少年Ｂ | 砲丸投 | ９ｍ００ |
| 少年共通 | 走高跳 | １ｍ６５ |
| 少年共通 | 三段跳 | 踏切板１２ｍ |
| 少年共通 | 円盤投 | ２０ｍ００ |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 区分 | 種目 | 計測ライン |
| 少年Ａ | 走幅跳 | ４ｍ４０ |
| 少年Ａ | 走高跳 | １ｍ３５ |
| 少年Ｂ | 走幅跳 | ４ｍ２０ |
| 少年Ｂ | 砲丸投 | ６ｍ５０ |
| 少年共通 | 棒高跳 | １ｍ８０ |
| 少年共通 | 円盤投 | １８ｍ００ |
| 少年共通 | やり投 | ２０ｍ００ |

１２　フィールド競技場所（競技進行の都合上、変更する場合もある。）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ７／１６（日） | ７／１７（祝） |
| 種目 | 種別 | 種目 | 種別 |
| メイン | 走幅跳 | 男少Ｂ | 三段跳 | 男少共 |
| 走幅跳 | 女少Ａ | 三段跳 | 女少共 |
| 走幅跳 | 女少Ｂ | 三段跳 | 女成年 |
| 走幅跳 | 男少Ａ | 走幅跳 | 男成年 |
| バック | 棒高跳 | 女成年 | 棒高跳 | 男少Ａ |
| 棒高跳 | 女少共 |  |  |
| Ａゾーン（ゴール側） | 円盤投 | 男少共 | やり投 | 女成年 |
| 円盤投 | 男成年 | やり投 | 女少共 |
| 円盤投 | 女少共 | やり投 | 男成年 |
|  |  | やり投 | 男少Ａ |
| Ｂゾーン（スタート側） | 砲丸投 | 女少Ｂ | 走高跳 | 女成年 |
| 砲丸投 | 男少Ｂ | 走高跳 | 男少共 |
| 走高跳 | 男成年 |  |  |
| 投擲場 |  |  | ﾊﾝﾏｰ投 | 女成年 |
|  |  | ﾊﾝﾏｰ投 | 男少Ａ |

１３　ウォーミングアップ上の注意事項

　　　　①ウォーミングアップは、補助競技場もしくは雨天走路で実施する。

　　　　②走練習は、時計回りで行うこと。（逆走を認めない。）

　　　　③雨天時以外は、雨天走路内でのハードル及びスタート練習を禁止する。

　　　　④ハードルを用いての練習は外側2レーンを使用すること。

　　　　⑤スタート練習は、4レーンより外側のレーンを使用すること。

　　　　⑥１～３レーンは周回等の走練習で使用すること。

　　　　⑦使用した器具（ミニハードルやスターティングブロック等）は使用後、速やかに片付けること。

　　　　⑧投てき練習は、砲丸投げ以外の種目は全て投てき場で行うこと。ただし、ハンマー投げの競技中は練習を禁止する。

　　　　⑨投てき練習の投げる方向は、一方向とする。（逆方向の投てきを禁止する。）